長浜半屋敷遺跡

福岡県筑後市大字長浜所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第 102 集

平成 24 年

（2012）

筑後市教育委員会

長浜半屋敷遺跡（ながはまはんやしきいせき）

－第 1 次調査－

平成 24 年

（2012）

筑後市教育委員会

序

当地は、筑後市の最東端部、九州縦貫自動車道八女インターチェンジに隣接した標高 17.5m 位の低位段丘上にあります。国道 442 号線と新設されたバイパスを接続するインターチェンジの改修工事に伴い、筑後市教育委員会が平成 23 年度に「長浜半屋敷遺跡」として実施しました。

今回の調査では、竪穴住居や溝、連続するピット群などの主要な遺構に加え、弥生時代から中近世までの幅広い時期の遺物も出土しました。

本書が、地域における文化財保護思想普及の一助となり、また、学術研究の資料として広く活用されることになれば幸いと存じます。本書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成 24 年 3 月

筑後市教育委員会

教育長　　高巣　一規

例　言

1. 本書は、筑後市教育委員会が平成 23 年度に実施した「長浜半屋敷遺跡（第 1 次調査）」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書に掲載した発掘調査の原因並びに調査機関等の調査に関わる経過については各調査の「（1）はじめに」に記載する。
3. 発掘調査に関して、現地調査から報告書作成に至るまでの諸作業（遺物実測及び図版浄書を除く）は筑後市教育委員会が実施した。
4. 発掘調査で出土した遺物並びに記録した図面類・写真類等は、当教育委員会で所蔵・保管を行っている。
5. 調査に用いた測量座標は、国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基準としており、本書に示される方位は G.N. を示している。従って、本文中に記される遺構の角度はこれを基準としたものであり、水準については T.P. を基準としている。
6. 本書に使用した図面類に関して、遺構実測図は北東調査区を小林勇作、南西調査区を吉村由美子が作成し、遺物実測図及び図版浄書は埋蔵文化財サポートシステム株式会社に委託した。
7. 本書に使用した写真類に関して、遺構写真は小林、吉村、遺物写真は小林が撮影した。
8. 本書に使用した遺構番号は、頭に調査次数並びに種別記号を表記し、種別は以下の記号を用いた。
　種別記号：「SD ‐ 溝」「SI ‐ 竪穴住居」「SK ‐ 土坑」「SP ‐ ピット」「SX ‐ 不明遺構・連続ピット群」
9. 本書の執筆と編集は小林が担当した。

目　次

Ⅰ. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅱ. 位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ⅲ. 調査成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　1. 基本層位・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　2. 検出遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　3. 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
　4. 小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

Ⅰ.はじめに

福岡県八女県土整備事務所から遺跡照会があった九州縦貫道八女インターチェンジの改修工事箇所について、福岡県教育委員会が試掘調査を実施したところ筑後市域で新たに遺跡の存在が明らかになった。この結果を基に筑後市教育委員会を含めた三者で協議を行い、道路が新設される約 2,160 ㎡について市教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

平成 23 年 4 月 14 日付けで福岡県八女県土整備事務所と受託契約を取り交わし、発掘調査は北東部分を小林勇作、南西部分を吉村由美子が担当した。平成 23 年 4 月 25 日から表土剥ぎ（有限会社徳光建設へ委託）を開始し、考古学的手法による遺構検出・遺構掘削・実測作業・写真撮影等を現地で行った。同年 6 月 15 日に空中写真撮影（有限会社空中写真企画へ委託）を実施し、6 月 23 日に現地でのすべての作業を終了した。作業終了後、直ちに埋め戻しを開始したが、雨期の影響で同年 7 月 15 日まで作業を要し、同日現場を工事関係者（西日本株式会社）に明渡した。遺物実測及び浄書作成は埋蔵文化財サポートシステムに委託し、その他の作業は当教育委員会で作業を行った。

【調査委託者】

福岡県八女県土整備事務所

所長

【調査受託者】

筑後市	市長	中　村　　征　一
筑後市教育委員会		
総括	教育長	高　巣　　一　規
庶務	社会教育課長	高井良　　清　美
	社会教育係文化スポーツ係長	村　上　　一　彦
	社会教育係文化スポーツ担当	小　林　　勇　作
	々	上　村　　英　士
	々	吉　村　　由美子（非常勤一般職員）

発掘作業員（五十音順）

石橋香代美・井上むつ子・植田　勝子・加藤　礼子・蒲池　京子・加々良一美・河添　幸子・隈本　千城・城崎マスヨ・下川　義文・角　里子　・中村　富男・中村　三男・橋本　高登・原　秋子　・堀田　武利・田島　好江・田島ヤス子・堤　義弘　・三瀬美樹子・渡邉　泰子

整理作業員

辻　美穂

発掘調査から報告書作成に至るまでの間、以下の方々にご指導・ご鞭撻を賜った。
記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

小池史哲、齋部麻矢、岸本圭（福岡県教育庁）、大塚恵治（八女市教育委員会）

Ⅱ . 位置と環境

筑後市は、福岡県の南西部、筑後平野の中央部にあたる。市域を JR 鹿児島本線と国道２０９号線が縦断し、国道 442 号線が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部や南西部では米麦中心の田園地帯が広がる。市域地は、国道に沿って市の中心部に形成されている。

今回報告する「長浜半屋敷遺跡」は、筑後市の最東端部、八女市境にあたる九州縦貫自動車道八女インターチェンジの西隣に位置し、標高 17.5m 位の低位段丘上に立地する。当遺跡の南西方には、縄文時代の落とし穴が検出された「長浜鐙遺跡」、北方には縄文時代、中世の遺構が検出された「前津柳ノ内遺跡」が点在する。一方、当遺跡から北東方へ 400m 離れた地点より弥生時代から平安時代にかけての「室岡工業団地内遺跡」が確認されている。この遺跡は八女市域に所在しており、八女市教育委員会が平成 4 ～ 7 年度にかけて発掘調査を実施し、集落遺跡から検出される竪穴住居、掘立柱建物、土坑などが検出されている。弥生土器、石包丁、須恵器、土師器、鉄製品など当該期の遺物も多数出土されており、各年代における集落の中心的空間であったことが窺いできる。更に、これより東方面には弥生時代を主体とする室岡遺跡群（亀ノ甲遺跡、山ノ上遺跡、北小路遺跡、道添遺跡）、古墳時代の岡山公園古墳（円墳）、平安時代の曲田遺跡などが展開する。

【註】

「長浜鐙遺跡」 筑後市内遺跡群Ⅱ　筑後市文化財調査報告書　第 33 集　筑後市教育委員会　2001
「前津柳ノ内遺跡」 筑後市文化財調査報告書　第 55 集　筑後市教育委員会　2004
「室岡工業団地内遺跡Ⅰ』 八女市文化財調査報告書　第 27 集　八女市教育委員会　1993
「室岡工業団地内遺跡Ⅱ』 八女市文化財調査報告書　第 31 集　八女市教育委員会　1994
「室岡工業団地内遺跡Ⅲ』 八女市文化財調査報告書　第 44 集　八女市教育委員会　1996

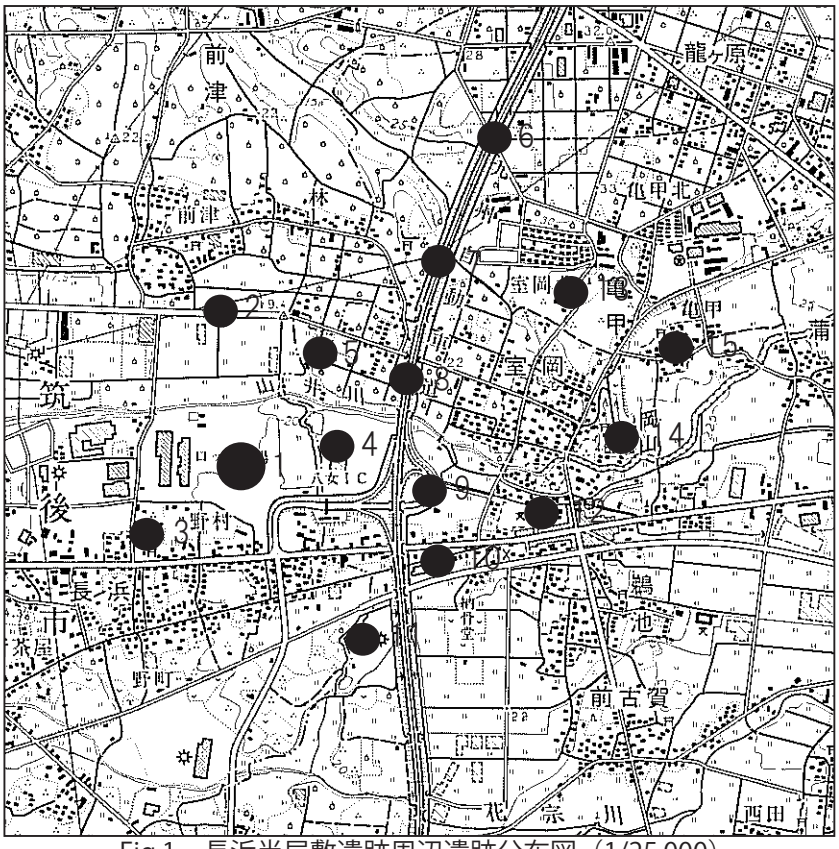


Fig.1　長浜半屋敷遺跡周辺遺跡分布図（1/25,000）

筑後市域

1. 長浜半屋敷遺跡
2. 前津柳ノ内遺跡
3. 長浜鐙遺跡

八女市域

4. 室岡工業団地内遺跡
5. 弥五郎遺跡
6. 西中沢遺跡
7. 坊野遺跡
8. 野口遺跡
9. 道添遺跡
10. 曲田遺跡
11. 上柳遺跡
12. 岡山小学校遺跡
13. 室岡遺跡群
14. 岡山公園古墳
15. 亀ノ甲東原遺跡

Ⅲ . 調査成果

1. 基本層位

北東調査区では地表面から約 1.4m の深さで遺構面の黄褐色粘質土を確認し、南東調査区では地表面から約 0.2 ～ 1.4m の深さで淡灰茶色粘質土の遺構面を確認した。地表面から遺構面までの間には表層の真砂土と埋立土が堆積していた。

2. 検出遺構

(1) 北東調査区

当調査区内は著しく削平を受けており、遺構の残存状態は不良であったが、竪穴住居 1 軒、溝 3 条、土坑 2 基のほか、連続するピット群などの主要遺構を検出した。

竪穴住居

1SI010（Fig.3、Pla.3・4）

調査区の南東部で検出した竪穴住居で遺構の南部は調査区外へ展開する。したがって全体規模は不明であるが、北西－南東間 2.85m、北東－南西間 1.65m、深さ 0.1m 前後分を検出した。残存状態が極めて悪く貼床を確認することはできなかったが、住居のコーナー部を辛うじて検出していることから平面プランは方形型を呈するものと思われる。住居内からは柱穴と考えられるピットが確認されており、

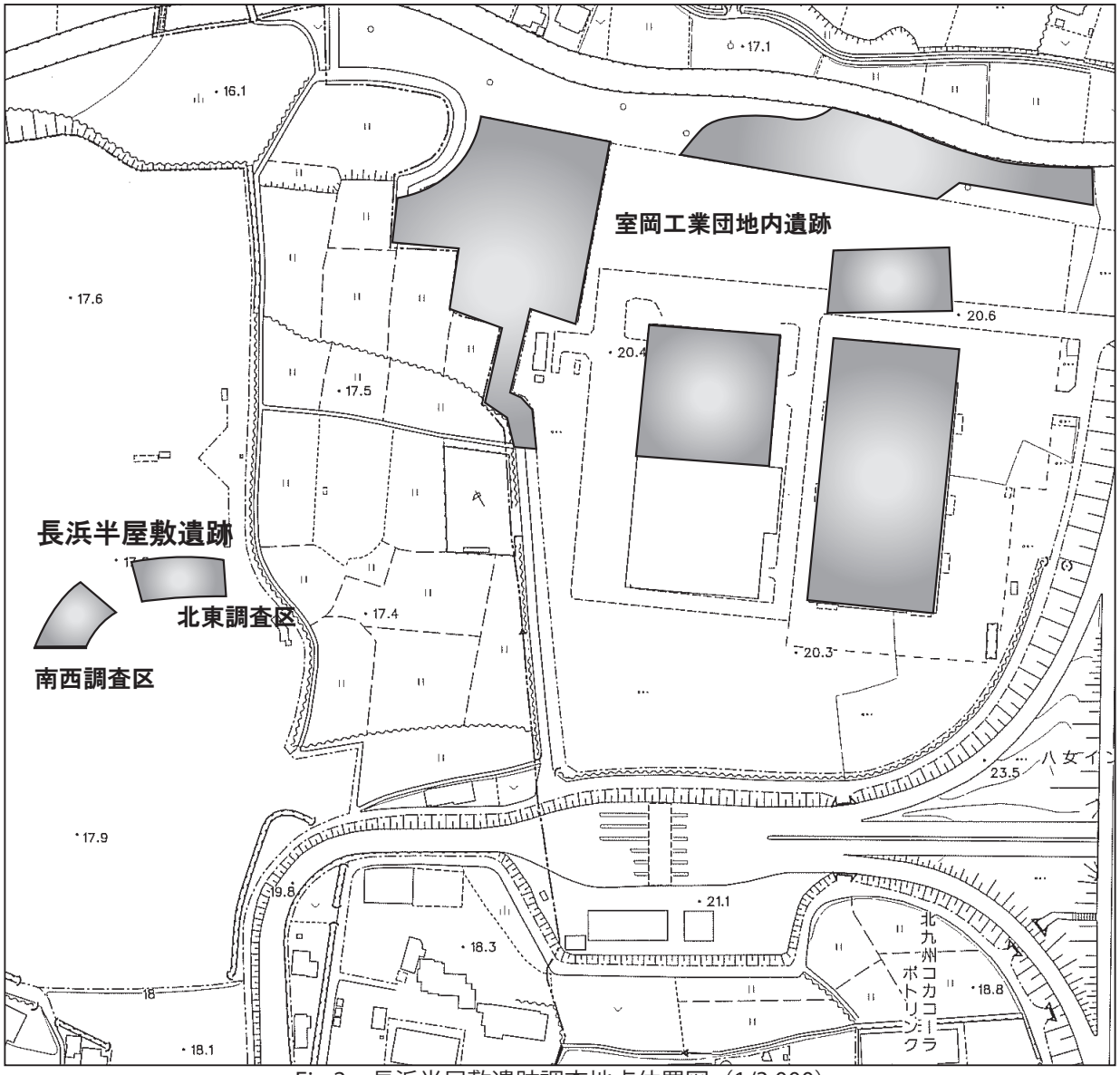
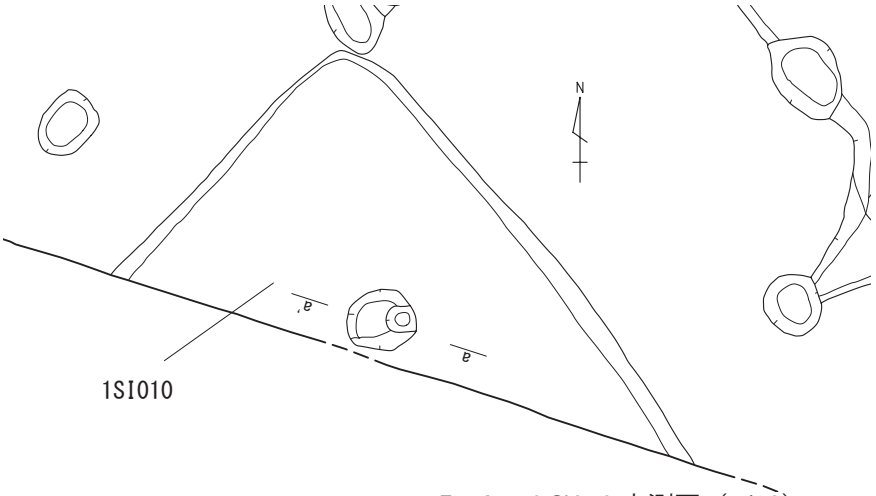


Fig.2　長浜半屋敷遺跡調査地点位置図（1/3,000）



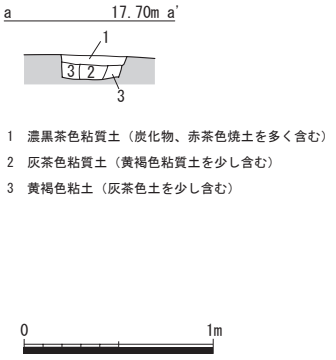


Fig.3　1 SI010 実測図（1/40）

平面形は楕円形を呈し、ピット径約 0.37m、深さ 0.09m、柱痕径 0.14m、深さ 0.19m を測る。出土遺物は弥生土器（片）が僅かに 1 点認められた。

溝

1SD001（Fig.6、Pla.2）

調査区東側で南北溝を確認した。検出長 15.3m、溝幅 0.60m 前後を測り、U 字状断面を呈する。溝底はほぼフラットに近い安定しており、須恵器（蓋）、土師器（甕・片）を出土している。

1SD012（Fig.4・6、Pla.2）

調査区中央部で北西 - 南東方向に延びる溝で西側に展開する 1SD015 へと接続するものと考えられる。当溝は北西部を 1SK013 に切られ、南東部は 1SK19 を切るように検出した。溝幅は 0.4m 前後、深さは 0.15m 前後であり、溝底は連続したピット状に凹凸する。淡黒茶色粘質土の埋土であり、弥生土器（片）、須恵器（片）、土師器（片）が出土した。

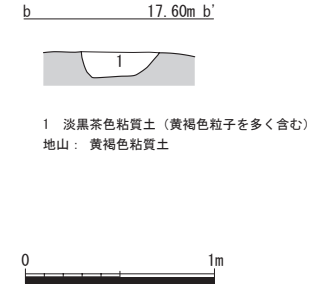


Fig.4
1 SD012
土層断面実測図（1/40）

1SD015（Fig.6）

調査区の西側で検出した。当溝から南東部に展開する 1SD012 に接続されるものと思われ、東方から西方へは強く湾曲して延びる。淡黒茶色粘質土を呈する埋土で、溝底西側は 1SD012 で検出した連続ピット状を呈する。遺物は弥生土器（片）、須恵器（蓋・坏）、土師器（坏・片）を認めた。

1SD018（Fig.6）

調査区の北西部で確認した浅い溝状遺構で西方から東方へかけては分岐する。埋土は黒茶色粘質土を基調とし、須恵器（蓋・坏・横瓶）、土師器（坏・甕）が出土している。

土坑

1SK013（Fig.6、Pla.2）

調査区の中央部で 1SD012 を切り、1SK014 に切られるように検出した。長軸 2.40m、短軸 0.25 ～ 0.60m を測り、底部は連続したピット状に凹凸が著しい。弥生土器（片）、須恵器（片）、土師器（小皿・片）を認めている。

1SK019（Fig.6、Pla.2）

調査区中央部で 1SD012 に切られるように検出した。長軸 4.85m、短軸 0.70 ～ 1.05m を測る不定形なプランを呈し溝底は連続ピット状を呈する。弥生土器（片）、須恵器（蓋・片）、土師器（片）を出土している。

不明遺構

1SX007（Fig.6、Pla.2）

調査区の南西隅で確認した。北西方向から南東方向へと溝状に広がる不定形な遺構であり、遺構中

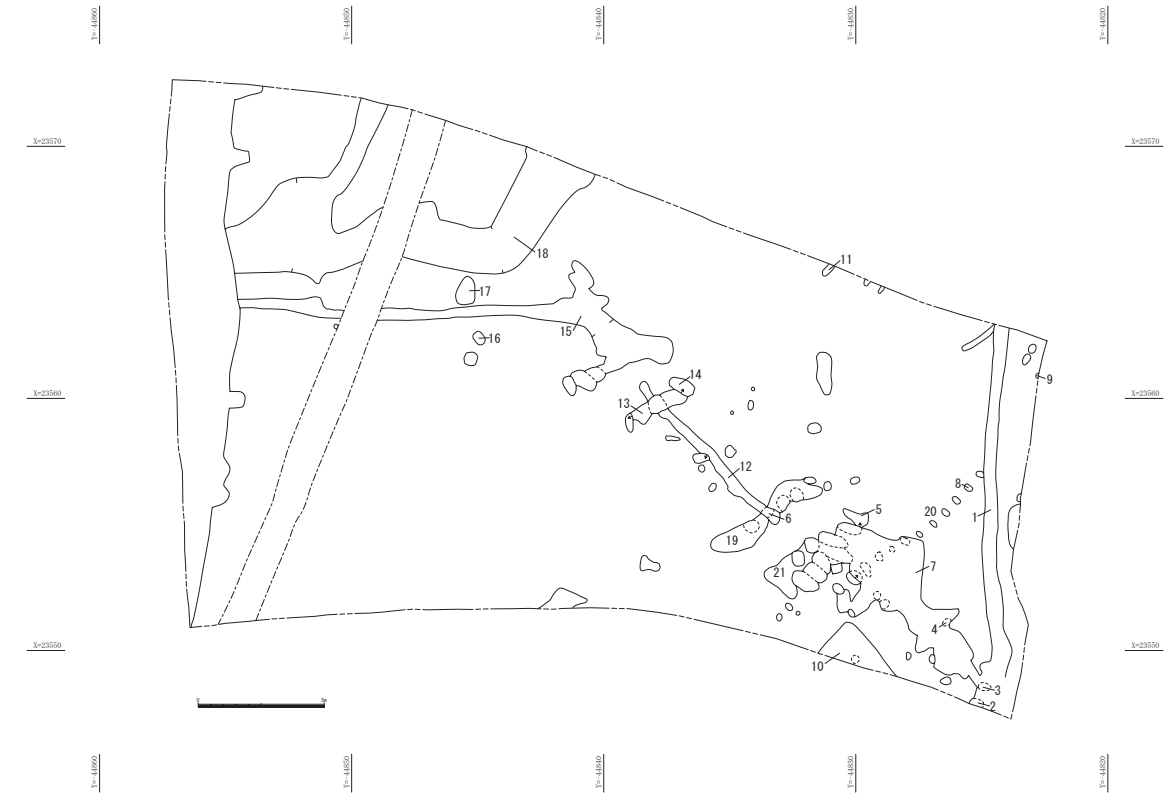


Fig.5　長浜半屋敷遺跡（第 1 次調査）北東調査区遺構略側図（1/300）

Fig.6　長浜半屋敷遺跡（第 1 次調査）北東調査区遺構平面図（1/300）

央部にかけてすり鉢状に底部が窪む。淡黒茶色粘質土を基調とする埋土で、遺構底部からは後述する1SX020、1SX021 の連続したピット群が確認された。当遺構からは弥生土器（片）、須恵器（蓋・片）、土師器（片）、瓦器（椀）、白磁（片）、石器（石鏃）が出土したが、何れも流れ込みにる混入品と考えられ時期を特定する資料には恵まれなかった。

1SX020（Fig.6、Pla.2）

調査区の南西隅で楕円形または不整形な連続するピット群を確認した。北東から南西の方位にかけて計 12 遺構を検出し、ピット間は 0.6 ～ 0.7m とほぼ同間隔に配置されている。淡黒茶色粘質土を基調とする埋土で深さは 0.15 前後を測る。P2（1SP008）から土師器（片）1 点が認められたが時期を特定できる資料ではなかった。

1SX021（Fig.6、Pla.2）

調査区の南西隅で楕円形または不整形な平面プランを呈するピット群を確認した。北東から南西の方位にかけて連続した 2 列のピット群は P1 ～ P3 を共有し P4 ～ P7、P8 ～ P13 へと分岐する。1SX20 とは対照的に当ピット群は隣接しあった状態で検出し、何れも淡黒茶色粘質土を基調とする埋土であった。深さは 0.03 ～ 0.13m と削平を受けており、P1（1SP005）から弥生土器（片）1 点を出土している。

（2）南西調査区

当調査区からは溝 10 条が検出されたが、縦横無尽に走る現代の溝によって大半が撹乱されている状態であった。さらに調査期間の時間的制約を受けていたため遺構掘削はトレンチでの確認を主とした。

溝

1SD100・105（Fig.7・10、Pla.4）

1SD100 及び 1SD105 は調査区中央の西端から南東方向にかけて延び、調査区南東部で分岐するものと思われる。土層観察から 1SD105（古）→ 1SD100（新）の先後関係が確認されたが、このほかに溝が存在していた可能性もある。1SD100 からは土師器(片)、染付（片）、陶器（片）、1SD105 からは土師器（土鍋・片）、磁器（片）、1SD100・105 からは土師器（棒状土製品、片）が出土しており、中世から近世にかけての遺構と考えられる。

1SD110（Fig.10、Pla.4）

調査区中央の西側で検出した。北西－南東方向の溝で長さ約 11m 分を確認し､幅は 0.6m 前後を測る。土師器（甕･片）、染付（碗･片）、陶器（片）が出土しており、近世の遺構と考えられる。

1SD115・120（Fig.8・10 ～ 12、Pla.4・5）

ともに調査区の北側で検出した東西方向の溝である。土層観察から 1SD115 が 1SD120 を切り、溝の中央部から東方にかけては分岐する。1SD115 は V 字状または逆台形状の断面形を呈し、1SD120 は緩やかな U 字状断面形を呈する。双方の溝からは土師器（片）1

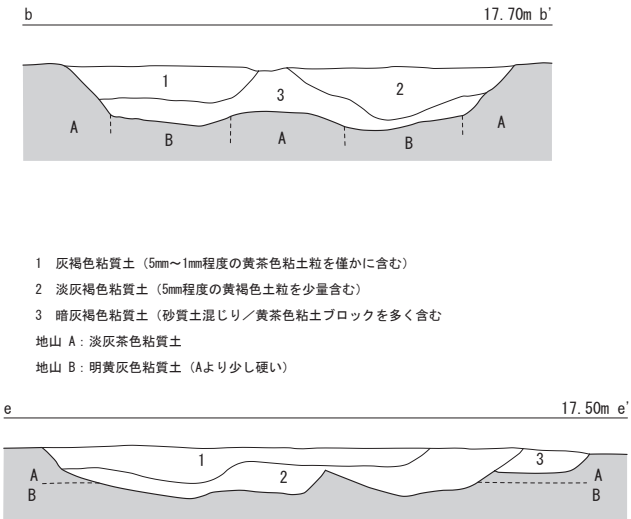


Fig.7　1SD100・105 土層断面実測図（1/40）

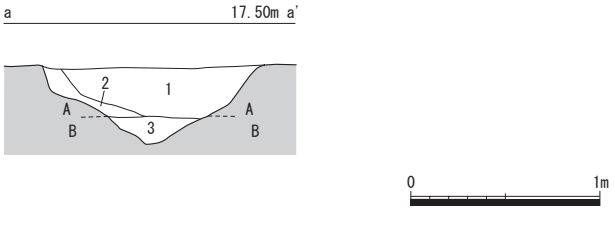


Fig.8　1SD115 土層断面実測図（1/40）

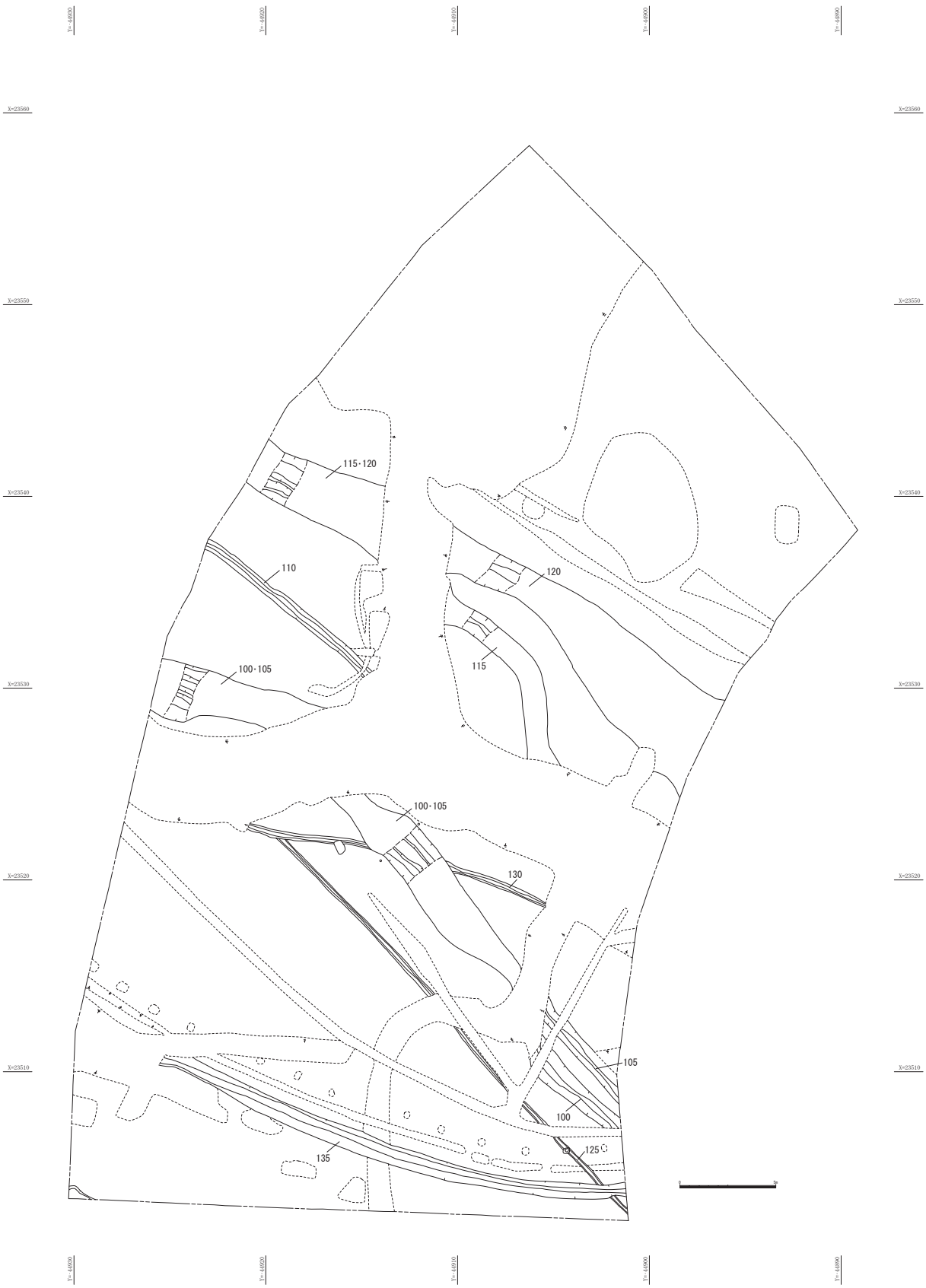


Fig.9　長浜半屋敷遺跡（第 1 次調査）南西調査区遺構略側図（1/300）

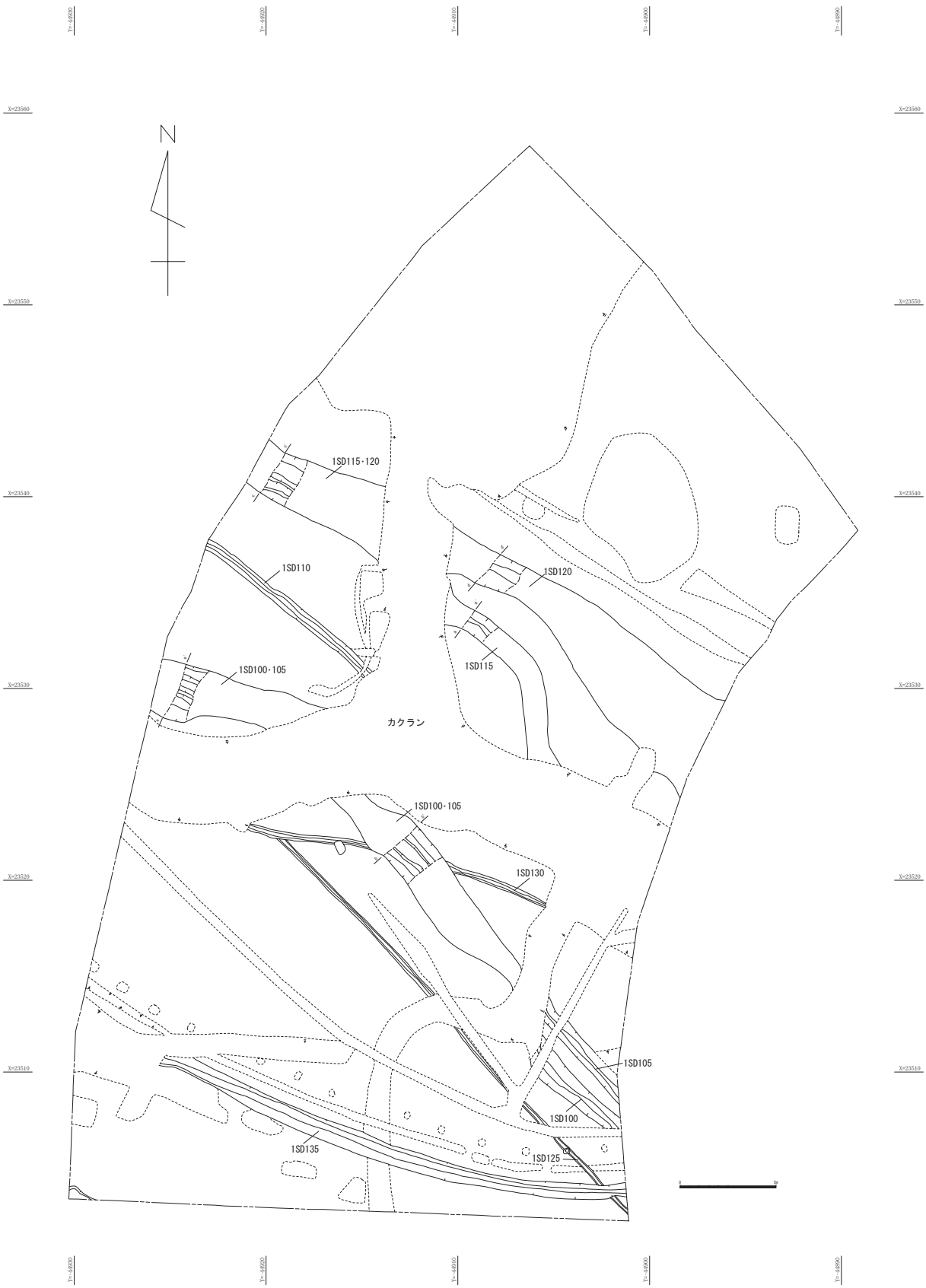


Fig.10　長浜半屋敷遺跡（第 1 次調査）南西調査区遺構平面図（1/300）

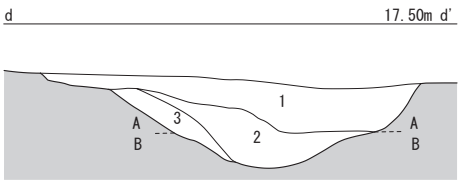
点と時期決定に至る遺物に恵まれていない。

1SD125・130（Fig.10）

1SD125 は調査区の南部で検出した北西 - 南東方向の溝で北西部は 1SD130 と合流する。幅 0.3m 前後の直線的な溝で断面形は U 字状を呈する。一方の 1SD130 は東西方向の溝で幅約 0.3m 前後を測り、U 字状断面を呈する。1SD125 からは須恵器（鉢・片）が出土したが、1SD130 からの出土遺物は皆無であった。中世の遺構と考えられる。

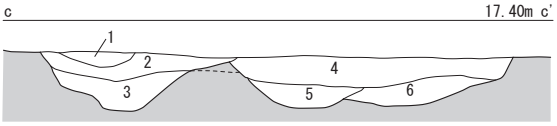
1SD135（Fig.10）

調査区南端部で検出した東西溝で緩やかな湾曲を描く。幅 0.6 ～ 1.2m を測り、溝の断面形はU字状を呈する。出土遺物は皆無であったが近現代の遺構と思われる。



1　暗灰褐色粘質土（SD115の1に近似）
2　濃灰褐色粘質土（1～2cm程度の黄茶色土粒・灰色砂質土ブロックを多く含む）
3　黒灰色粘質土
地山 A：淡灰茶色粘質土
地山 B：淡黄白色粘質土

Fig.11　1SD120 土層断面実測図（1/40）



1　暗灰色粘質土（褐色土粒を含む）
2　暗灰褐色粘質土（黄茶色土粒を僅かに含む）
3　明灰褐色粘質土（黒灰色土ブロックを少量含む／黄茶色砂質土混り）
4　暗灰色粘質土（黄茶色砂質土ブロック混り）
5　暗灰色粘質土（4に近似／黄茶色土粒を多く含む）
6　濃黄灰色砂質土（やや粘性あり）

0　1m

Fig.12　1SD115・120 土層断面実測図（1/40）

3. 出土遺物

（1）北東調査区

溝

1SD015（Fig.13、Pla.5）

須恵器

蓋（1 ～ 3）　1 は天井部のみの細片で外面に W 字状のヘラ記号が認められる。天井部外面は回転ヘラケズリ内面は回転ナデ調整である。2 は口径 13.6 ㎝を復元する。天井部と口縁部境の外面には凹状の沈線を施し、口縁端部内面は若干凹線を認める。3 は口縁端部内側にかえりのある細片である。

坏（4）　口径 11.7 ㎝、器高 4.7 ㎝を測る。蓋受け部を有する坏で立ち上がりはやや内傾したものとなっている。底部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ、口縁部内外面は回転ナデ調整を施す。

1SD018（Fig.13、Pla.5）

弥生土器

器台（5）　口縁部細片で断面台形状の端部を呈する。口径は 11.0 ㎝を測る。

須恵器

坏（6）　蓋受け部のある口縁部細片で立ち上がりは短く内傾する。

土師器

坏（7）　丸底を呈する口縁部細片で著しく磨耗しており調整は不明である。

不明遺構

1SX007（Fig.13、Pla.5）

石器

石鏃（8）　先端部を欠損した石鏃で材質はサヌカイト製である。表裏面縁部に細かく刃部を作り出す。現存長 2.6 ㎝、幅 1.95 ㎝、厚さ 0.4 ㎝、重さ 1.1 ｇを計測する。

ピット

1SP016（Fig.13、Pla.6）

土師器

甕（9）　口縁部から体部にかけての細片で口縁部は緩やかに外反する。体部外面に叩きを認めるがそれ以外は磨耗のため調整不明である。

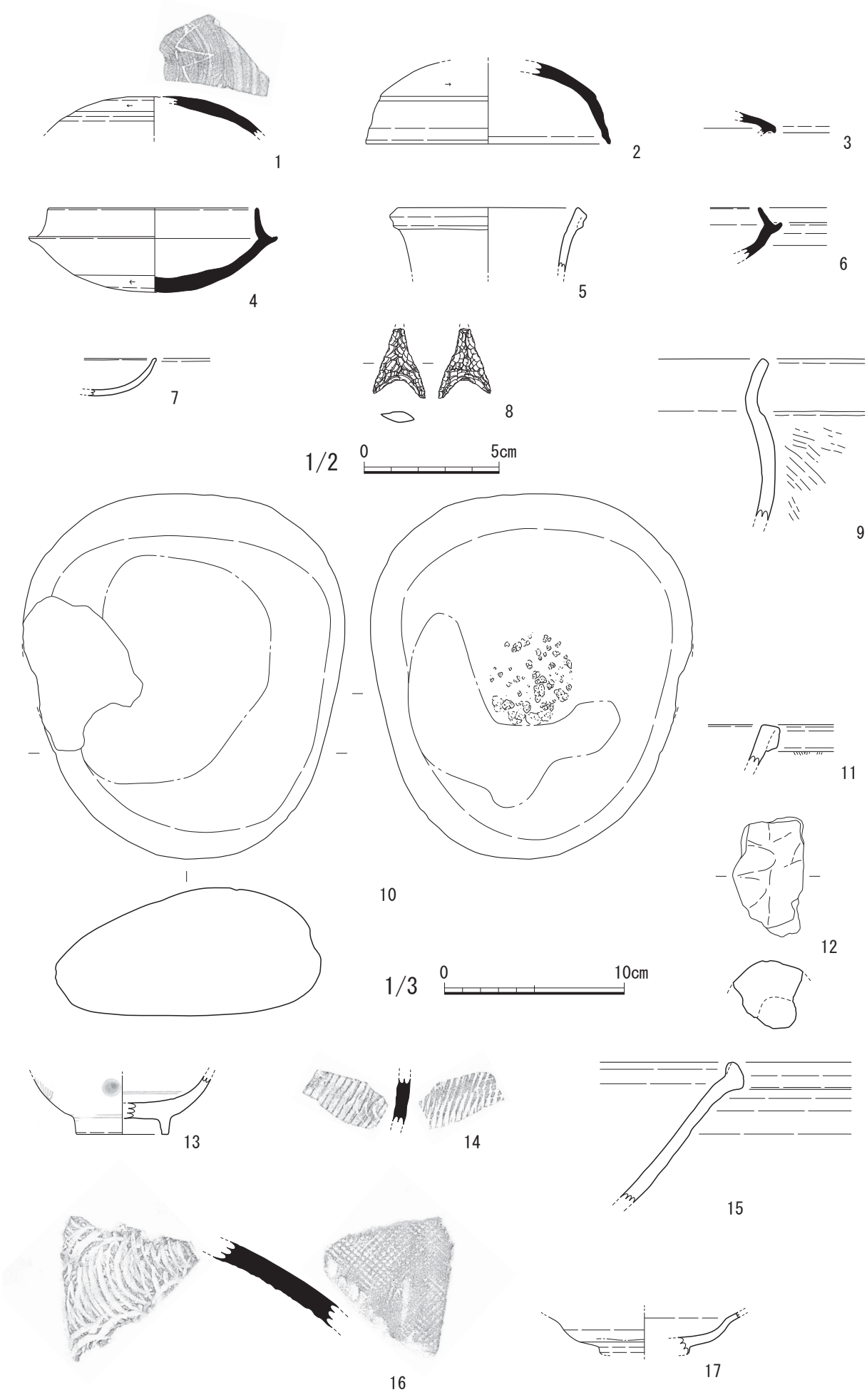


Fig.13　出土遺物実測図（1/2・1/3）

石器

敲石（10） 楕円形状を呈するもので表面左端部を欠損する。表面中央部に磨耗面を残し、裏面中央部には敲き打痕を認める。現存長 20.35 ㎝、幅 17.85 ㎝、厚さ 7.3 ㎝を測り、石材は不明である。

（2）南西調査区

溝

1SD105（Fig.13、Pla.6）

土師器

土鍋（11） 細片で玉縁状口縁を呈する。胎土に 1 ㎜以下の砂粒、雲母を少量含む。

1SD100・105（Fig.13、Pla.6）

土製品

棒状土製品（12） 現存長 6.65 ㎝、幅 3.95 ㎝、厚さ 3.8 ㎝を計測する。外面はナデ調整を認める。

1SD110（Fig.13、Pla.6）

染付

碗（13） 高台径は 5.2 ㎝を測る。丸味を帯びた肥厚した底部を呈し、体部外面には呉須で文様を描く。見込みには五弁花文を施し、蛇の目状に釉を掻き取る。畳付けには砂が付着し高台内は施釉する。

1SD120（Fig.13、Pla.6）

須恵器

甕（14） 細片で外面には平行文の叩き痕、内面には同心円文のあて具痕を認める。

1SD125（Fig.13、Pla.6）

須恵器

鉢（15） 東播系鉢と思われ、口縁部は玉縁状を呈する。外面及び口縁部内面は回転ナデ、内面は工具ナデ調整を施す。

甕（16） 肩部破片で外面には格子文叩き痕、内面には同心円文あて具痕を認める。

遺構検出面出土（Fig.13、Pla.6）

陶器

皿（17） て字状皿で高台径は 4.2 ㎝を復元する。灰白色の素地に灰黄色の釉を施す。見込みは蛇の目状に釉の掻き取りを行う。

4. 小結

北東調査区では弥生～古墳時代の竪穴住居 1 軒、溝 3 条、土坑 2 基、連続ピット群などの主要遺構を検出した。北東調査区の 1SI010 は集落に位置づけられる貴重な遺構であるが、全体プラン等の規模がつかめておらず、また出土遺物に恵まれていないことで時期不明となっている。1SI010 付近で確認した北東 - 南西方向を示す連続ピット群もまた時期断定には至っていないが野町能楽遺跡等、市内遺跡で数例の検出をみる。これまでの調査成果から道路的性格である可能性が強いことを踏まえ、当連続ピット群も同様の遺構と想定している。連続ピット群が示す北東方の延長先には「位置と環境」で先述した室岡工業団地内遺跡（八女市教委調査）が点在する。弥生～平安時代における竪穴住居等の集落跡が展開する複合遺跡であり、当遺跡とは約 400 mほどの距離を隔てている。近接する両遺跡には未調査空間が広がっていることや 1SI010、連続ピット群が時期不明のまま遺跡の関連性について述べるには多くの課題が残されているが、古代集落に関連する遺構は南西調査区では確認されておらず、当遺跡は古代集落周縁部に近い位置的空間にあることが予想される。その集落本体は室岡工業団地内遺跡と想定するのが自然で、今後は一体的な周辺調査が行われることを期待したい。

北東調査区出土遺物

1SD001

須恵器	蓋
土師器	甕、片

1SP002

弥生土器	片

1SP003

弥生土器	片
土師器	片

1SP004

土師器	片

1SP005

弥生土器	片

1SP006

弥生土器	片
須恵器	蓋、片
土師器	片

1SX007

弥生土器	片
須恵器	蓋、片
土師器	片
瓦器	椀
白磁	片
石器	石鏃

1SP008

土師器	片

1SP009

弥生土器	片

1SI010

弥生土器	片

1SP011

土師器	片

1SD012

弥生土器	片
須恵器	片
土師器	片

1SK013

弥生土器	片
須恵器	片
土師器	小皿、片

1SK014

土師器	片

1SD015

弥生土器	片
須恵器	蓋、坏
土師器	坏、片

1SP016

土師器	甕、片
石器	敲石

1SK017

土師器	坏

1SD018

須恵器	横瓶、蓋、坏
土師器	坏、甕、片

北東調査区遺構検出面

須恵器	蓋、坏、甕
土師器	坏、甕、片

北東調査区カクラン

弥生土器	片
土師器	片
染付	片
陶器	すり鉢、片

南西調査区出土遺物

1SD100

土師器	片
染付	片
陶器	片

1SD105

土師器	土鍋、片
磁器	片

1SD100・105

土師器	片、棒状土製品

1SD110

土師器	片

1SD120遺構検出面

須恵器	片
土師器	片

1SD120

土師器	片

1SD115・120

土師器	片

1SD125

須恵器	東播系鉢、片

南西調査区遺構検出面

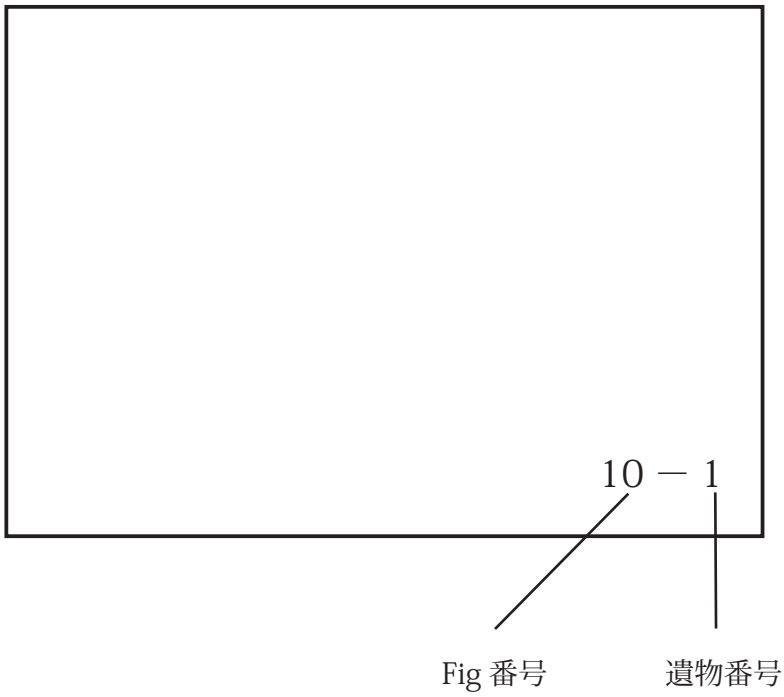
土師器	片
染付	片
陶器	碗、すり鉢、片
瓦	片

Tab.1　長浜半屋敷遺跡（第 1 次調査）出土遺物一覧表

PLATE

凡　例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。



北東調査区全景（空中写真：東から）

南東調査区全景（空中写真：西から）

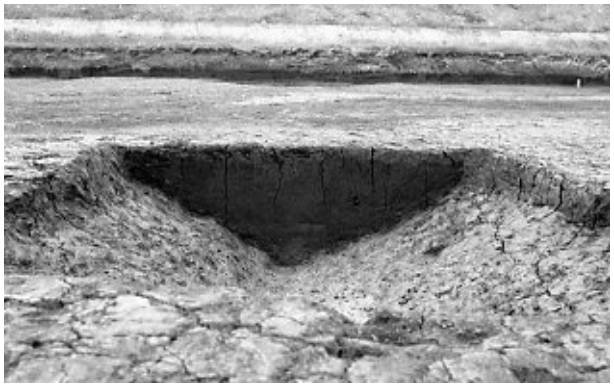
北東調査区東側検出状況（空中写真：真上から）

南西調査区南側検出状況（東から）

南西調査区南側検出状況（東から）

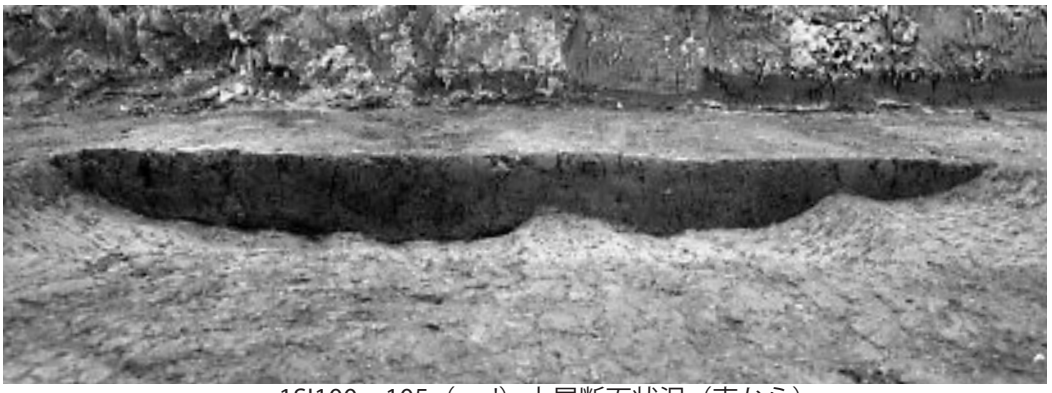
1SI010 完掘状況（西から）

1SI010 柱穴土層断面状況（北から）

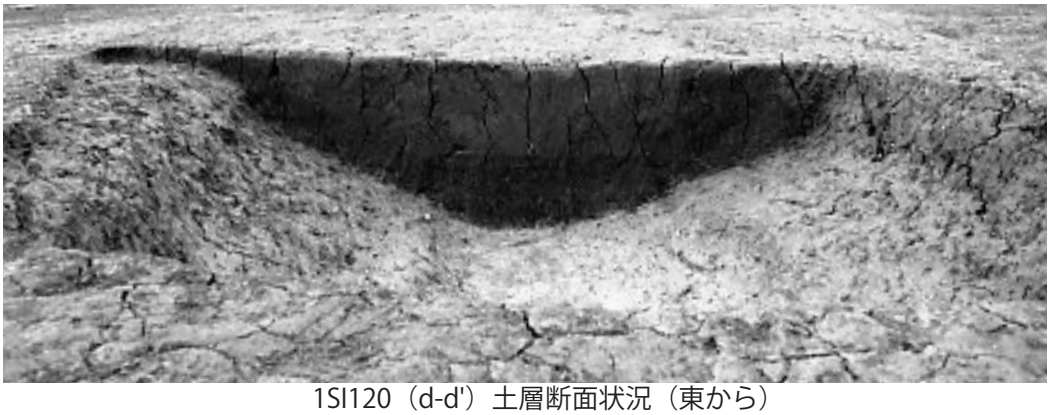


1SD115（a-a'）土層断面状況（東から）

1SI100・105（b-b'）土層断面状況（東から）

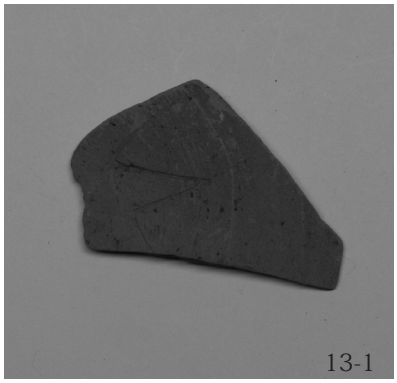


1SI100・105（e-e'）土層断面状況（東から）

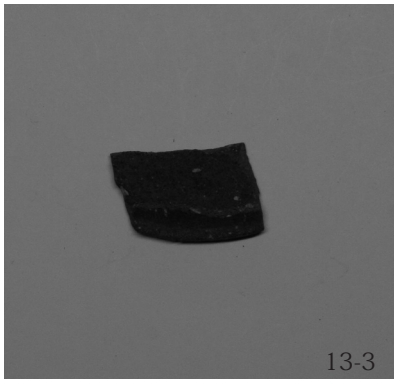


1SI120（d-d'）土層断面状況（東から）

1SI115・120（c-c'）土層断面状況（東から）

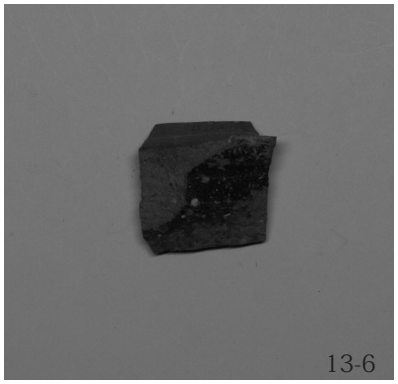

13-1

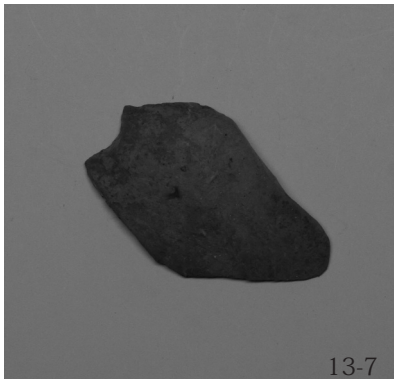
13-2

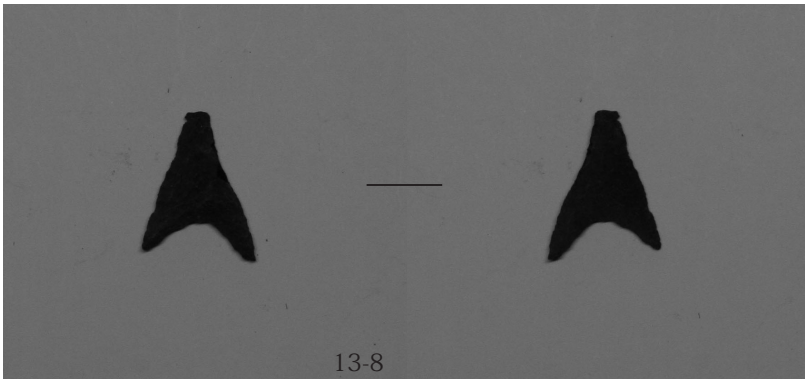

13-3

13-4

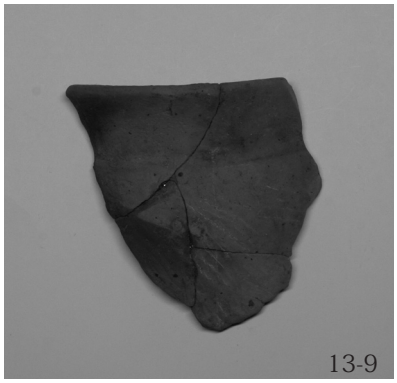
13-5

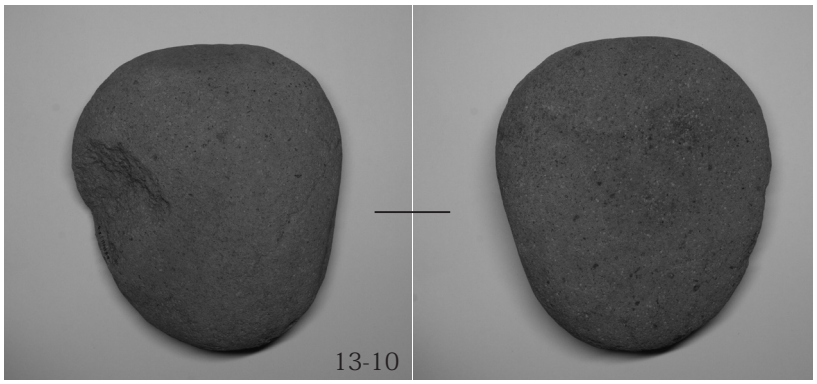

13-6

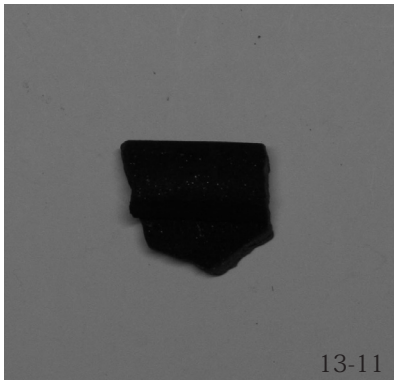

13-7


13-8

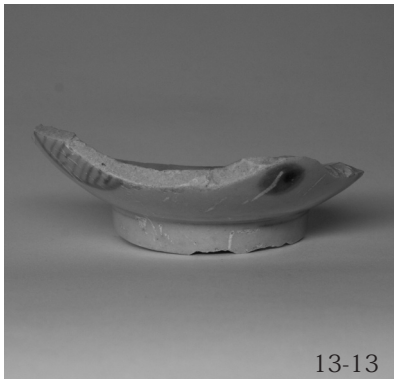
Pla.6

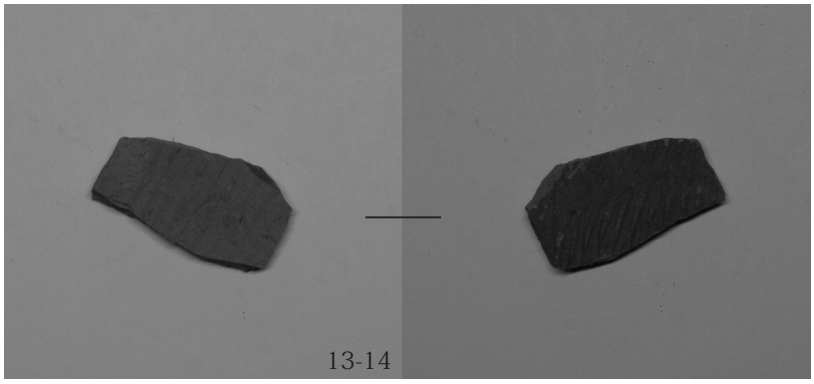

13-9


13-10

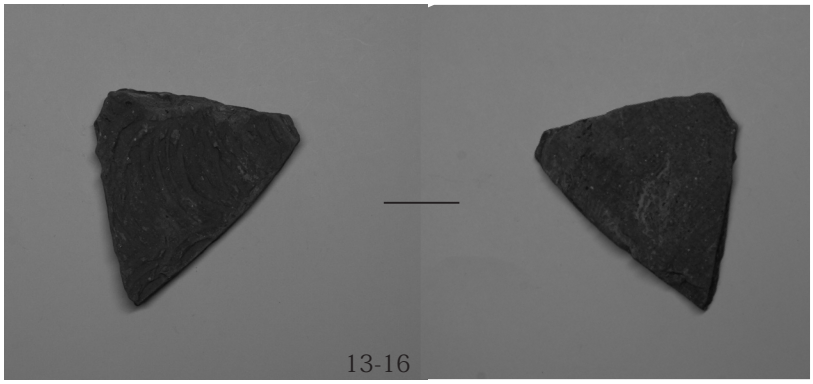

13-11

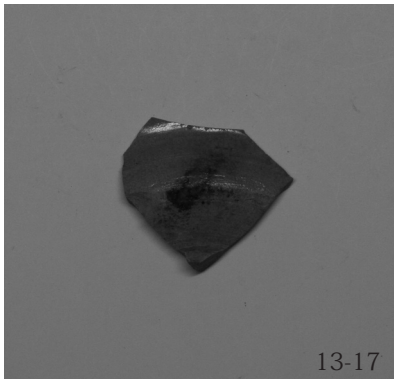
13-12


13-13


13-14

13-15


13-16


13-17

長浜半屋敷遺跡

筑後市文化財調査報告書

第 102 集

平成 24 年 3 月

発　行　　筑後市教育委員会

福岡県筑後市大字山ノ井 898 番地

TEL （0942）53-4111

印　刷　　大同印刷株式会社

佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉 1848-20

TEL （0952）71-8520 ㈹